

阪神・淡路大震災対応技術特別研究委員会 研究報告会

# フォーラム「大震災の教訓を活かすために」

〈大阪会場 配布資料〉

平成9年2月13日

主催：土木学会

登 録	平成 9年 3 月19 日
番 号	第 44806 号
社団 法人	土 木 学 会
附 属	土 木 図 書 館

## 資料目次

### 開催の趣旨

### 部会報告

設計技術検討部会	- 1
施工技術検討部会	- 39
防災システム検討部会	- 49

### パネル討論会：Part 1「こう活かせる……大震災の教訓――耐震設計編」

兵庫兵庫県南部地震から学ぶもの―大学にて構造工学を教育・研究する―教員の視点― 大阪市立大学工学部土木工学科 教授 園田恵一郎	- 71
兵庫県南部地震の教訓を生かすために ―港湾の施設を中心として― (財)沿岸開発技術研究センター 常務理事 稲垣 紘史	- 73
阪神・淡路大震災の教訓を活かす 大阪市建設局土木部橋梁課 課長代理 丸山 忠明	- 75
耐震設計技術の高度化に求められるもの―構造技術者の立場から (株)建設技術研究所大阪支社 次長 友永 則雄	- 77

### パネル討論会：Part 2「こう活かせる……大震災の教訓―復旧工事・防災システム編」

大震災の教訓を防災システムに生かすために 大阪大学工学部土木工学科 教授 松井 保	- 79
災害に強い都市をめざして 神戸市震災復興本部総括局 部長 安藤 嘉茂	- 83
大震災の教訓を生かすために 阪神高速道路公団工務部 部長 出口 正義	- 87
受注者の立場から (株)大林組神戸支店土木工務部 部長 畑 昭雄	- 89

### 委員会・部会名簿

## 開催主旨

阪神・淡路大震災対応技術特別研究委員会（委員長 廣田良輔土木学会副会長）は平成7年10月に発足し、委員会での討議を重ねると共に、三つの部会を設け、

- （1）耐震設計法の改訂に実務者が的確に対応するにはどのような課題があるか、
- （2）復旧・復興工事にあたり現場はどのような苦勞をし、どのような課題を残したか、
- （3）地震発生時にどのような危機管理がおこなわれ、今後どのようなシステムの改善を図ればよいか、

などの疑問に答えるために調査研究を行ってまいりました。

このたび、当研究委員会はフォーラムを開催して、多くの方々にこれまでの活動をご報告し、合わせて、パネル討論を行って、今後の大地震に対応する具体的な方策について広くご意見を伺い、共に議論させていただくことと致しました。

この資料の前半、すなわち「部会報告」の部分は、当研究委員会が3部会に分かれて調査研究した成果を中間的にとりまとめたものです。各位から忌憚ないご批判を頂いて内容の充實を図り、これから取りまとめる委員会報告に反映したいと考えております。

後半は、本日のパネル討論会に登壇し話題提供していただくパネリストの方々に、ご発言の要旨をあらかじめ取りまとめたいただいたものです。パネル討論の際に大変参考になるかと存じます。

なお、同じフォーラムを1月22日に東京で開催いたしました。300余名の方々の参加を得て活発な討論が行われております。